



Information3



今月は、かかると怖い『猫の主な感染症』についてです！
主な感染症5つご紹介します！！

・猫ウイルス性鼻気管炎

感染力が強く、他のウイルスとの混合感染も多いため、特に子猫の場合重篤化し、死亡する場合があります。

〈症状〉咳、くしゃみ、発熱、鼻水、目ヤニ、結膜炎

・猫カリシウイルス感染症

他のウイルスとの混合感染で合併症などを引き起こすと、死亡する場合があります。

〈症状〉発熱、口内炎、舌の潰瘍、鼻水、結膜炎、目ヤニ、くしゃみ

・猫汎白血球減少症

子猫や若い猫に発症が多い

猫パルボウイルス症としても知られており、もっとも危険な急性感染症の一つです。

〈症状〉白血球の減少、免疫力低下、発熱、嘔吐、血様下痢、脱水
妊娠猫がかかると胎子へ影響します。



Q.なぜワクチン接種が必要なのか？

子猫は生まれてからしばらくは、母猫から譲り受けた免疫で感染症から守られます。しかし、その免疫は長続きしません。この免疫は徐々に低下し、病原体から身を守る力が十分でない子猫は病気に対して無防備になってしまいます。ワクチンを接種することで、免疫をつけ病原体が入ってきてもやっつけることができます！！

・猫白血病ウイルス感染症

感染猫の血液や唾液、涙の中には大量のウイルスが存在し尿や糞便中にも含まれます。

一般的に感染猫の唾液や鼻汁との長期接触、つまりグルーミングや食器の共有によって感染が成立します。

発症すると治療が難しい深刻な病気のため、

予防と感染の拡大を減らすことが重要です。

〈症状〉免疫機能の抑制、貧血、リンパ腫の原因となり、症状は様々です。

胎子への感染は死産となる確率が高いです。



・猫クラミジア感染症（人畜共通感染症）

おもに子猫が発症し結膜炎と上部呼吸器症状がみられ、感染が持続することもあります。

〈症状〉結膜炎、目ヤニ、鼻水、くしゃみ、咳、一過性の発熱、食欲不振、体重減少

いつ・どこで かかるか分からないのが感染症の怖いところです。
発症すると治療が難しく、重症化して命にかかわることもあります。

伝染力が強い感染症のためにワクチンがあります。

ワクチンで予防できる病気はしっかり予防し
環境に合ったワクチン接種をしましょう！！

